

## 『ソーシャルワーク実践による高齢者虐待予防』

## 目次

## 序章 本研究の背景と目的

I	本研究の背景	2
1	人口高齢化	2
2	介護保険制度にみる費用抑制策	3
3	ケア提供者の質と量	3
4	高齢者虐待の相談・通報件数の増加と被虐待者の特性	5
5	被虐待者がおかれている環境	5
II	本研究の目的	7
III	本研究の枠組み	8
1	本研究の射程	8
2	高齢者虐待の予防概念	9
3	高齢者虐待の事象を予防するソーシャルワーク実践	10
4	本研究の方法	11
5	本研究の構成	13

第1章 養護者による高齢者虐待  
防止に関する先行研究

I	高齢者虐待防止研究の現状と課題	16
1	高齢者虐待の定義に関する研究	16
2	高齢者虐待の要因に関する研究	19
3	被虐待者の保護	26
4	養護者支援の研究	27

II	高齢者虐待防止法に基づいた対応の現状と課題	31
III	虐待対応とソーシャルワーク実践	36
1	法に基づいたソーシャルワーク実践の意義	36
2	法施行前後のソーシャルワーク支援の意味あい	37
3	本研究でのソーシャルワーク実践の定義	40

## 第2章 高齢者虐待の予防に関する先行研究と概念枠組み作成の試み

I	高齢者虐待の予防に関する先行研究	44
II	高齢者の介護予防事業における予防概念	47
1	介護保険法改正にみる介護予防サービス事業における予防概念の役割	47
2	予防概念をめぐる生活習慣病予防と介護予防との関係	48
III	ソーシャルワークにおける予防概念	50
1	予防概念導入の変遷	50
2	予防概念の視点とソーシャルワークのモデル・アプローチとの関係	51
IV	予防医学・予防精神医学における予防概念	54
1	予防医学と予防精神医学における予防の目的	54
2	Caplan, G の提唱する第一次予防	55
3	Caplan, G の提唱する第二次予防	57
4	Caplan, G の提唱する第三次予防	58
5	Caplan, G における第一次予防・第二次予防・第三次予防の関連性	58
6	Caplan, G による危機の視点	60
7	Caplan, G による地域計画と評価	62
8	Caplan, G の予防概念の枠組みにみる特徴	63

V	日本の四つの虐待防止法における「予防」の扱われ方	66
VI	公的マニュアルに規定されている「予防」の段階	69
VII	高齢者虐待予防への Caplan, G の予防概念の援用	72
1	高齢者虐待の事象に対する第一次予防	72
2	高齢者虐待の事象に対する第二次予防	73
3	高齢者虐待の事象における第三次予防	74
4	高齢者虐待に関する予防対策の現状	76

## 第3章 高齢者虐待悪化防止の協働プロセスの様相

——ケース記録の質的分析をとおして——

I	高齢者虐待対応における協働の先行研究	80
II	本研究における質的調査の目的	84
III	研究の方法	85
1	質的調査の分析方法	85
2	調査対象	86
3	分析手順	88
4	倫理的配慮	107
IV	分析結果	108
1	高齢者虐待が疑われた13事例の概要	108
2	第一分析の結果——高齢者虐待防止法に基づいたマニュアルの遵守状況——	113
3	第二分析の結果——当事者の取組みにおける虐待の悪化を防止した取組み——	137
4	第三分析の結果——虐待対応機関、関係者・関係機関、当事者の虐待対応プロセス——	146
5	13事例にみる高齢者虐待の悪化防止のための協働——第一・	

目次	
第二・第三分析のまとめ	148
6 考察	157
7 まとめ	168
V 限界と意義	170

## 第4章 高齢者虐待の悪化を防止した取組みの探索的な分析 ——量的調査を中心に——

I 問題の関心	174
II 高齢者虐待防止法に基づいた公的マニュアルの遵守による虐待対応の体制に関する先行研究	176
1 高齢者虐待防止法に基づいた公的マニュアルの遵守状況の調査	176
2 地域包括支援センター業務の支援プロセスの調査	178
3 地域包括支援センター業務の虐待対応プロセスに関連する要因	179
III 目的	183
IV 研究の方法	184
1 調査方法と調査対象	184
2 分析方法	184
3 分析に用いた変数	185
4 倫理的配慮	205
V 結果	206
1 基本属性	206
2 高齢者虐待防止法に基づいた公的マニュアルの遵守状況の結果と特徴	211
3 市区町村マニュアルの策定の有無と高齢者虐待防止状況との関連	229
VI 考察	242

- 1 高齢者虐待の対応状況と悪化防止の取組み状況についての考察…… 242
- 2 市区町村がマニュアルを独自に作成する意義…………… 247
- 3 本量的調査における限界…………… 248

## 第5章 実践への示唆

### ——高齢者虐待の予防支援システムの構築に向けて——

- I 高齢者虐待における第一次予防対策の必要性…………… 252
  - 1 研修・教育の実施とネットワークの活用の促進…………… 252
  - 2 都道府県単位による相談助言・広域調整機関の設置体制…………… 253
  - 3 調査・研究による検証の必要性…………… 253
- II 高齢者虐待における第二次予防対策の必要性…………… 254
  - 1 危機への介入体制の整備…………… 254
  - 2 虐待対応プロセスを遵守したソーシャルワーク実践の必要性…………… 255
- III 高齢者虐待の第三次予防対策の必要性…………… 256
- IV 高齢者虐待を予防する地域づくりの必要性…………… 258

## 終章 まとめと今後の展望

- I 要約…………… 262
- II 本研究の意義と限界…………… 268
  - 1 研究対象に対しての意義と限界…………… 268
  - 2 研究方法に関しての意義と限界…………… 268
  - 3 研究結果に関しての意義と限界…………… 269
- III 今後の展望…………… 270

目 次 .....

- 謝 辞..... 271
- 文 献..... 273
- [巻末資料] アンケート調査依頼文・調査票..... 301
- 事項索引..... 312
- 著者略歴..... 315